

広島県歯科衛生士養成所指導要領

1 一般的事項

- (1) 養成所の設置者は、国又は地方公共団体が設置者である場合のほか、営利を目的としない法人であることを原則とすること。
- (2) 土地、建物の位置及び環境は教育上適切であること。
- (3) 養成所の経理が他と明確に区分されていること。
- (4) 会計帳簿、決算書類等収支状態を明らかにする書類が整備されていること。
- (5) 入学検定料、入学金、授業料及び実習費等は、学則に定める額であり、寄付金等の名目で不当な金額を徴収しないこと。
- (6) 指定規則第3条第2項の届出及び第5条の報告は、確実、かつ、遅滞なく行うこと。

2 学則に関する事項

- (1) 学則は養成所ごとに定めること。
- (2) 学則には、次に掲げる事項を規定すること。
 - ① 設置の目的
 - ② 名称
 - ③ 位置
 - ④ 定員及び学級数に関する事項
 - ⑤ 修業年限、学期及び授業を行わない日に関する事項
 - ⑥ 教育課程及び単位数に関する事項
 - ⑦ 成績の評価に関する事項
 - ⑧ 入学、退学、転学、休学及び卒業に関する事項
 - ⑨ 教職員の組織に関する事項
 - ⑩ 運営を行うための会議に関する事項
 - ⑪ 学生の健康管理に関する事項
 - ⑫ 入学検定料、入学金、授業料、実習費、その他費用徴収に関する事項
- (3) 学則に記載した事項の細部については、必要に応じ細則を定めること。

3 学生に関する事項

- (1) 学則に定められた学生の定員が守られていること。
- (2) 入学資格の審査及び入学の選考が適正に行われていること。
- (3) 入学は学年の初めに、転学は学年又は学期の初めに行うこととし、その手続は、学則に定めるところにより厳正に行うこと。
- (4) 学生の出席状況が確実に把握されており、特に出席状況の不良な者については、進級又は卒業を認めないものとする。
- (5) 入学、進級、卒業、成績及び出席状況等に関する諸記録が、確実に保管されていること。
- (6) 入学時の健康状態の把握、入学後の健康診断の実施及び疾病の予防措置等学生の保健衛生に必要な

な措置が講じられていること。

4 教員及び事務職員に関する事項

- (1) 専任教員は各学級ごとに配置し、学生の指導に支障をきたさないようにすること。
- (2) 専任教員である教育に関する主任者（教務主任）を1名置くこと。
- (3) 教育上必要な教員数を確保すること。実習には、必要に応じ、教員に加えて適当な数の実習指導員又は実習助手を配置すること。
- (4) 1教員の担当授業時間数は、過重にならないよう1人1週間当たり15時間を標準とすること。
- (5) 教員は、その担当科目に応じ、それぞれ相当の学識経験者を有する歯科医師、歯科衛生士又はこれを同等以上の学識を有する者であること。
- (6) 原則として、専任の事務職員を置くこと。

5 授業に関する事項

- (1) 指定規則別表に定める各教育分野は、別添1に掲げる事項を修得させることを目的とした教育内容とすること。
- (2) 指定規則別表に定める選択必修分野の教育内容については、基礎分野、専門基礎分野又は専門分野を中心に教授するものとし、その選択に当たってはそれぞれの養成所の特色が明らかになるよう特に配慮すること。
- (3) 歯科衛生士養成所に係る単位の計算方法等については、次のとおりであること。

① 単位の計算方法

ア 基本的計算方法

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1単位の授業時間数は、講義及び演習については15時間から30時間、実験、実習及び実技については30時間から45時間の範囲で定めること。

イ 臨地実習（臨床実習を含む。）

臨地実習については、1単位を45時間の実習をもって構成することとし、実習時間の3分の2以上は病院、診療所、歯科診療所において行うこと。

ウ 時間数

時間数は、実際に講義、実習等が行われる時間をもって計算すること。

② 単位の認定

ア 単位を認定するに当たっては、講義、実習等を必要な時間数以上受けているとともに、当該科目の内容を修得していることを確認する必要があること。

イ 指定規則別表の備考に定める大学、高等専門学校、養成施設に在学していた者の係る単位の認定については、本人からの申請に基づき、ここの既修の学修内容を評価し、養成所における教育内容に該当すると認められる場合には、総取得単位数の2分の1を超えない範囲で当該養成所における履修に替えることができること。

(4) 教育実施上の留意事項

- ① 臨地実習は、実践活動の場において行う実習のみを指すものであること。
- ② 臨地実習は、原則として昼間に行うこと。

6 施設整備に関する事項

(1) 土地及び建物の所有等

- ① 土地及び建物は、設置者の所有であることを原則とすること、ただし、貸借契約が長期にわたるものであり、恒久的に養成所運営ができる場合は、この限りでないこと。
- ② 校舎は独立した建物であることが望ましい。ただし、やむを得ず、他施設と併設する場合は、養成所の運営上の制約を受けないよう配慮すること。

(2) 教室等

- ① 普通教室、基礎実習室及び実験室は専用とし、普通教室は学級数に見合う数を有すること。
- ② 普通教室の面積は学生1人につき1.65㎡以上であり、かつ、1教室の総面積は24.75㎡以上であること。
- ③ 基礎実習室及び実験室の面積は学生1人につき2.31㎡以上であり、かつ、1室の総面積は34.65㎡以上であって、電気、ガス、水道及び換気等の設備が設けられていること。
- ④ 教室、基礎実習室及び実験室の広さは、内法で測定されたものであること。
- ⑤ 図書室を有すること。図書室の面積は、学生の図書閲覧に必要な閲覧機の配置及び図書の格納のために十分な広さを有すること。図書室の効果を確保するためには、他施設と兼用することは望ましくないこと。
- ⑥ 教員室、保健室、専用の更衣室（ロッカー室）、標本・機械・器具・材料等を保管する室、実習に関する準備室及び視聴覚室を有することが望ましいこと。
- ⑦ エックス線を扱う実習（実験）室には、関係法令に定める障害防止の措置を講ずるとともに、所定の手続きを行うこと。

(3) 機械器具等

- ① 教育上必要な機械器具、標本及び模型等は、別添2に掲げるものを標準として有すること。また、その他の教育上必要な機械器具、標本及び模型等は、教育内容に応じ、適宜整備すること。
- ② 教員は、その担当科目に応じ、教育上必要な標本及び模型等の教材を適宜整備すること。
- ③ 図書は1,000冊以上備え、このうち半数以上は専門図書であること。ただし、雑誌は1巻を1冊として算定すること。
- ④ 機械器具、標本、模型及び図書は、学生定員数に応じ、適宜補充し更新すること。

7 実習施設に関する事項

- (1) 実習施設としては、臨床実習施設としての病院、診療所、歯科診療所以外に、臨床実習施設以外の実習施設としての介護老人保健施設、介護老人福祉施設、保健所、保育所その他の社会福祉施設等を適宜含めること。
- (2) 臨床実習施設は歯科臨床や地域保健等の実習を行うにふさわしい施設であり、次の要件を備えていること。

- ① 臨床実習施設における指導教員は、歯科衛生に関し相当の経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも1人は免許を受けた後4年以上業務に従事し、十分な指導能力を有するものであること。
 - ② 臨床実習施設における指導教員数は、少なくとも歯科医師及び歯科衛生士各1名以上であって、1施設当たりの学生数は2名以上とすること。なお、歯科医師及び歯科衛生士各1名の場合の学生数は3名を標準とすること。
 - ③ 臨床実習施設には診察室のほか学生控室を有し、別添3を標準として、必要な設備、機械器具を備えていること。ただし、学生控室は他の適当な室と共用しても差し支えないこと。
- (3) 臨床実習施設以外の実習施設については、医療法、介護保険法等で定められている基準を満たし、実習を行うにふさわしい施設であること。

8 広告及び学生の募集に関する事項

- (1) 広告については、申請書（設置計画書）が受理された後、申請者の責任において開始することができる。また、その際には、指定申請中（設置計画）であることを明示すること。
- (2) 学生の募集行為は、指定申請書が受理された後、申請者の責任において開始することができる。また、その際には、指定申請中であることを明示すること。学生の定員を増加させる場合の学生の募集行為（従来の学生の定員に係る部分の学生の募集行為を除く。）については、これに準じて行うこと。

9 その他

養成所の新設の場合、地域歯科関係者との協力体制を勘案すること。

附 則

- 1 この要領は、平成28年8月19日から施行する。
- 2 この要領の施行の際、現に医療従事者養成所等設置計画書等を広島県知事へ提出している場合は、なお従前の例による。